

## 実施要領

### 国立研究開発法人森林総合研究所 公開シンポジウム

「カラマツとカラマツ研究のこれから-カラマツ資源の持続的利用にむけて-」

#### 背景と目的

ニホンカラマツ（以下、カラマツ）は、日本における主要な林業樹種の一つで、用材や坑木等の生産を目的とした人工造林が明治期に信州で始められ、その後寒冷地、高標高地を中心に広がりました。近年カラマツ素材はスギに次いで生産されており、合板や集成材等の材料としても利用されています。カラマツを今後も持続的に利活用するためには、カラマツの適した場所で着実に再造林を促進し、カラマツ資源量が豊富な地域で素材生産を高め、カラマツ材の用途拡大や利用促進を図る必要があります。カラマツをテーマとした研究開発が欠かせないと考えています。

そこで、過去から現在までのカラマツ林業およびその研究を振り返るとともに、カラマツの持続的利用に向けた研究ニーズやカラマツ林業のイノベーションについて広く議論を進めるためのシンポジウムを開催します。

開催年月：平成 29 年 2 月 7 日 10:00～17:00 ポスター展示

13:00～17:00 講演会（シンポジウム）

開催場所：JA 長野県ビル（長野県長野市） アクティーホール

主 催：国立研究開発法人森林総合研究所

後 援：林野庁中部森林管理局、長野県

参加費：無料

ポスター展示 10:00-17:00 （コアタイム 12:00-12:45、15:00-15:30）

#### 講演会（シンポジウム）

13:00-13:15 開 会

主催者挨拶 堀 靖人（森林総合研究所研究ディレクター）

主賓挨拶 新島俊哉（中部森林管理局長）

来賓挨拶 池田秀幸（長野県林務部長）

13:15-15:00 第 1 部 カラマツとカラマツ研究のあゆみ

趣旨説明 細田和男（森林総合研究所）

カラマツとカラマツ研究の歴史 武井富喜雄（長野県林業大学校）

北海道産カラマツの将来を予測する

津田高明（北海道立総合研究機構林業試験場道南支場）

長野県におけるカラマツ利用開発の足跡

吉田孝久（長野県林業総合センター）

現在進行中のカラマツ研究

「本州以南におけるカラマツの安定供給と持続的利用方策の提案」

細田和男（森林総合研究所）

「北海道産カラマツを用いた高性能な構造部材の開発と普及」

大橋義徳（北海道立総合研究機構林産試験場）

「優良苗の安定供給と下刈り省力化による一貫作業システム」

宇都木玄（森林総合研究所）

「カラマツ種苗の安定供給のための技術開発」

田村 明（森林総合研究所林木育種センター）

15:00-15:30 休憩（ポスター コアタイム2）

15:30-17:00 第2部 パネルディスカッション

カラマツ研究のこれから -カラマツの持続的利用と安定供給にむけて-  
パネリスト

吉田孝久（長野県林業総合センター）

津田高明（北海道立総合研究機構林業試験場道南支場）

大橋義徳（北海道立総合研究機構林産試験場）

佐藤 肇（林野庁中部森林管理局）

辻 龍介（宮城県庁）

三田林太郎（三田農林株式会社）

駒木貴彰（森林総合研究所東北支所）

司会：高橋正義（森林総合研究所）

17:00 閉会挨拶 千葉幸弘（森林総合研究所研究コーディネーター）

意見交換会 17:30-19:30 2A 会議室（会費制 2500 円）